

# 放課後等デイサービス BRIDGE

5領域を含めた支援プログラム

令和6年9月1日作成

#### □事業所理念

- ・ B R I D G E に関わる全ての人の幸せを目指します。
- ・ 子どもたちの最善の利益を求め、1人ひとりの個性を尊重します。
- ・ 子ども達と一緒に、職員も楽しみながら共に成長していきます。
- ・ 子どもたちの未来の姿を常に想像して関わります。
- ・ 家族と同じように子供の成長を喜び家族と共に学び、成長しあえる場所にします。
- ・ 地域の方々との関りや交流の場を大切にします。

#### □支援方針

- ・ 子ども達1人ひとりの意思決定を尊重します。
- ・ スモールステップで成長を促します。
- ・ 体操療育で心身の健康を育むとともに、成功体験を積み増して自己肯定感の向上を目指します。

#### □営業時間

- ・ 平 日：10：00～19：00
- ・ 学校休業日：09：00～18：00

#### □送迎実施の有無

学校お迎えのみ有（自宅への送迎は要相談）

#### □支援内容

##### 1 本人支援

##### 「健康・生活」面への支援

##### ・健康状態の把握

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程に配慮し、小さなサインから心身の異変に気付けるよう、きめ細やかな観察を行う。

##### ・基本的生活スキルの獲得

身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。

##### ・構造化等により生活環境を整える

生活の中で、様々な遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。

## 例

- ・体操療育、コーディネーションゲームを通じた健康の維持・増進
- ・料理やお菓子作りなどを通じた食育
- ・トイレトレーニング
- ・時間に応じた行動の切り替え獲得のための支援
- ・構造化を意識した掲示物、子どもへの指示など

## 「運動・感覚」面への支援

- ・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

- ・保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊びを通して支援する。

- ・感覚の補助及び代行手段の活用

保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。

- ・感覚の特性（過敏や鈍麻）への対応

感覚や認知の特性（過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整や補助具を使用する等の支援を行う。

## 例

- ・体操療育やコーディネーションゲーム
- ・視覚や聴覚、触覚を刺激するようなゲームやクイズ
- ・感覚過敏な子に配慮した環境設定など

## 「認知・行動」面への支援

- ・感覚や認知の活用

視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。

- ・知覚から行動への認知過程の発達

環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。

- ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。

- ・数量、大小、色等の習得

数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。

- ・認知の偏りへの対応

認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

- ・行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び、適切行動への対応の支援を行う。

例

- ・ブロックなど立体の造形物を使った創作活動
- ・音楽やリズムを使って五感を刺激する活動など

「言語・コミュニケーション」面への支援

- ・言語の形成と活用

具体的な物事や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な意思表示を促す支援を行う。

- ・受容言語と表出言語の支援

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。

- ・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

- ・指差し、身振り、サイン等の活用

指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。

- ・読み書き能力の向上のための支援

発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

例

- ・伝言ゲームや早口言葉など言葉を用いたゲーム
- ・生活の中で起こる事柄に対するロールプレイング
- ・人前で話す機会の提供や自分からお友達に話しかける場面の提供

「人間関係・社会性」面への支援

- ・アタッチメント（愛着行動）の形成

人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。

- ・模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

- ・感覚運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

- ・一人遊びから共同遊びへの支援

周囲に子供がいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して遊ぶ連合的な遊び、役割分担やルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

- ・自己の理解とコントロールのための支援

大人を介在して自分の出来ること出来ないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整が出来るように支援する。

- ・集団への参加の支援

集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。

#### 例

- ・ごっこ遊びや模擬店などを通してなり切ってみる。
- ・他己紹介など他者を知るための活動
- ・職場体験や社会科見学など

## 2 家族支援

- ・子育ての悩み等に対する相談を行う。
- ・家庭内での養育等について、ペアレントトレーニング等を活用しながら子どもの育ちを支える力をつけられるように支援する。
- ・保護者様の時間を保証するために、ケアを一時的に代行する支援を行う。
- ・兄弟についても発達障害についての理解を得られるように、兄弟参加型のイベントを行う。

## 3 移行支援

- ・地域の公園や児童館に出向き、障害のない子供たちとの交流の機会を提供する。
- ・契約時や契約解除時は、前後に利用する他施設との情報交換を行い、新しい生活にスムーズに移行できるように支援する。

## 4 地域支援

- ・関係機関との情報交換を密に行い、一貫した支援を行う。

#### □職員の質の向上

- ・毎日ミーティングを行い、支援に対する意見交換を積極的に行う。

- ・ 計画的に施設内外での研修の機会を確保する。
- ・ 各人が目標シートを作成し、現状の把握と明確な課題をもって現場に入る。

□ 主な行事等

- ・ お花見、七夕イベント、ハロウィンイベント、クリスマスイベント、節分イベント  
消防避難訓練、運動機能検査、保護者会